

令和4年度 座間不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上	各自が公務を離れても公務員としての自覚と高い倫理観に基づいて行動し、公務外非行をゼロにする。	(ア) 朝の打合せ時等で事故事例を教職員に伝え、事故・不祥事防止に対する意識喚起を行った。 (イ) 新採用職員等に対する研修及び管理職による全教職員への個別指導を実施した。 (ウ) 公務外非行防止に関する具体事例に基づく校内研修会等を実施した。
児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	わいせつ・セクハラ行為のない教育環境をつくる。	(ア) 電子メールや SNS、LINE などを利用した生徒との連絡を行っていないことを確認した。 (イ) わいせつ・セクハラ行為防止の具体策、携帯電話や電子メール不適切な使用の防止及び他者に対する人権に配慮した言動に関する校内研修等継続して行った。 (ウ) 教科準備室の適切な利用を徹底した。
職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止	パワハラ、セクハラ、マタハラ行為のない職場環境をつくる。	職場内での適切な職務遂行のために、各個人の行動を振り返りヒヤリハット事例などを共有しつつ教職員の人権意識を高め風通しの良い職場環境の醸成に取り組んだ。
体罰、不適切な指導の防止	部活動や教科指導等での体罰・不適切指導を未然に防止する。	(ア) 体罰防止に関する研修を行い、体罰によらない指導の理解を深め、教職員の相互チェック体制を整備した。 (イ) 体罰及び不適切な指導を防止し、生徒の人権を尊重した適切な指導が行えるよう、教員と部活動インストラクター等の外部指導者間の連携との情報共有を図った。（通年） (ウ) 適切な部活動指導について、顧問会議や研修会において徹底した。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	各グループ等、業務上の事故防止に向け業務遂行体制を点検・整備し、事故を未然に防止する。	(ア) 入学者選抜制度に対応したわかりやすいマニュアルを作成し、全職員に周知し、各業務の開始前にポイントを整理して確認し、入学者選抜業務における事故を防止した。 (イ) 毎学期末に全職員による成績個票一斉点検を実施し、成績処理における事故を未然に防止した。 (ウ) 3 学年団及び担当グループにより調査書等の点検を複数回行うとともに、管理職による確認作業を徹底し、進路関係資料の作成及び取扱いに係る事故を防止した。
業務執行体制の確立（情報共有、相互チェック体制、業務の精選による多忙化の解消・集中力の維持）	各グループ等、業務上の事故防止に向け業務遂行体制を点検・整備する。	(ア) 業務執行体制について、企画会議を開催し点検・見直し・業務分担の変更を行った。 (イ) 校内会議の実施や起案書式の統一化などによる業務の精選により、職員が集中力を維持して業務を遂行できる環境を整え、事故を未然に防止した。

個人情報等の管理・情報セキュリティ対策	個人情報等の管理に関わる事故・不祥事をゼロにする。	(ア) 県の情報セキュリティポリシーに基づき、定期的な点検を実施した。 (イ) 生徒、部員などの携帯番号や電子メールアドレス等、個人情報を登録する場合には、生徒および保護者の同意、管理職への事前届出、パスワード設定などの適正管理及び不適切使用防止に関する校内研修を実施した。 (ウ) 持ち出しを避ける業務マネジメントを行い、校外に個人情報等を持ち出す場合の事前許可と直帰及び復命を徹底した。 (エ) 教務手帳をはじめとする重要個人情報については鍵付きロッカーを利用した管理を徹底した。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通法規を遵守し、交通事故を未然に防止する。	(ア) 新聞・ニュース報道等の身近な事例を共有し、私生活等においても教職員は、公務員としての自覚を持って行動した。 (イ) 事故防止会議で職員全員を対象にした職場研修を実施した。
会計事務等の適正執行	県費・私費(部活動費を含む)会計の不適正処理をゼロにする。	(ア) 私費(部活動費を含む)会計に関する適正な処理についての校内研修を実施した。 (イ) 顧問会議を通じて、部費の徴収・通帳管理・執行・決算報告が適切になされるように、顧問教員にルールの徹底を図った。
政治的中立性の厳守	教育公務員として、政治的中立性を自覚し、不適切な行動を未然に防止する。	県からの通知文や啓発資料、新聞記事等を配付あるいは掲示し、朝の打合せで呼びかけて、未然防止に関する注意喚起を行った。
若手教職員の育成	若手教職員に対する不祥事防止に関する知識の継承を図り、事故防止に対する意識を高める。	業務の遂行に当たって、若手職員との情報共有の機会を増やし不祥事防止知識と意識の向上を図った。

○ 令和4年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和5年度に取り組むべき課題
(学校長意見)

令和4年度においては、不祥事ゼロプログラムの目標および行動計画は概ね達成することができた。しかし、県内での不祥事は相変わらず後を絶たない状況である。今後も、不祥事防止の根絶に向けては、継続して粘り強く取り組む必要がある。

令和4年度は、ハラスメントに重点を置いて、研修や事例を通じた教職員全体への指導を繰り返し行った。「生徒に対するわいせつ事案等の根絶に向けた取組み」について、一人ひとりの職員が自分事として捉え、不祥事防止についての考えを繰り返し研修を行い、理解を深めることができた。

令和5年度は県立学校不祥事防止研修会講師の派遣を活用するなど、全教職員一人ひとりが「絶対に不祥事を起こさない」という強い意志をもって行動すること、風通しのよい職場環境を整備することで、不祥事ゼロに向けた組織的な取り組みをさらに推進していく。